

---

# 既設多核種除去設備 A/Cの応急復旧について

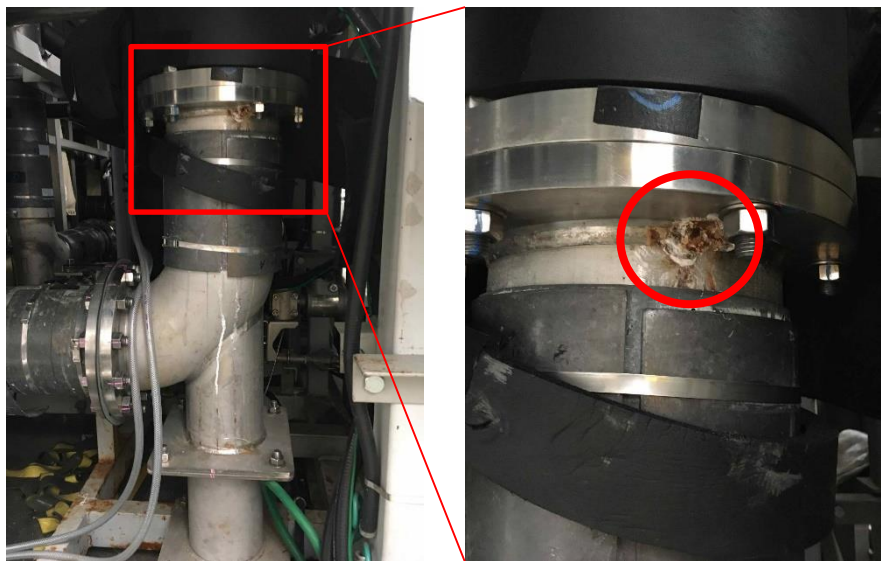
2020年9月2日

東京電力ホールディングス株式会社

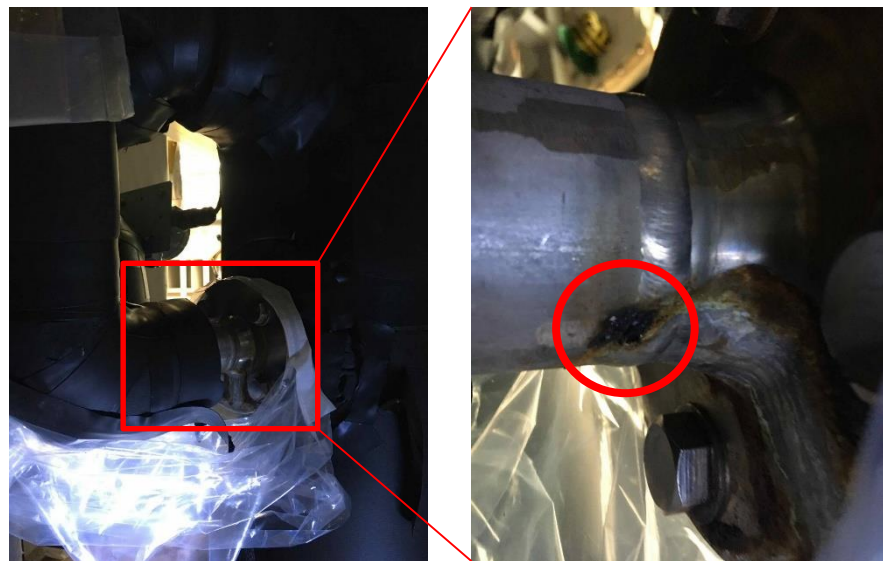
# 多核種除去設備で確認された腐食孔の概要

## ■ 概要

- 2020年7月9日、多核種除去設備（既設ALPS）建屋内のクロスフローフィルター2C二次側出口配管下部に水溜りを確認（協力企業員がパトロール中に発見）。調査の結果、腐食孔（ピンホール）からの漏えいである事を確認した。
- 同日、既設ALPS クロスフローフィルタ2A一次側出口配管についても、滲み跡を発見した。調査の結果、腐食孔（ピンホール）と思われる箇所を確認した。



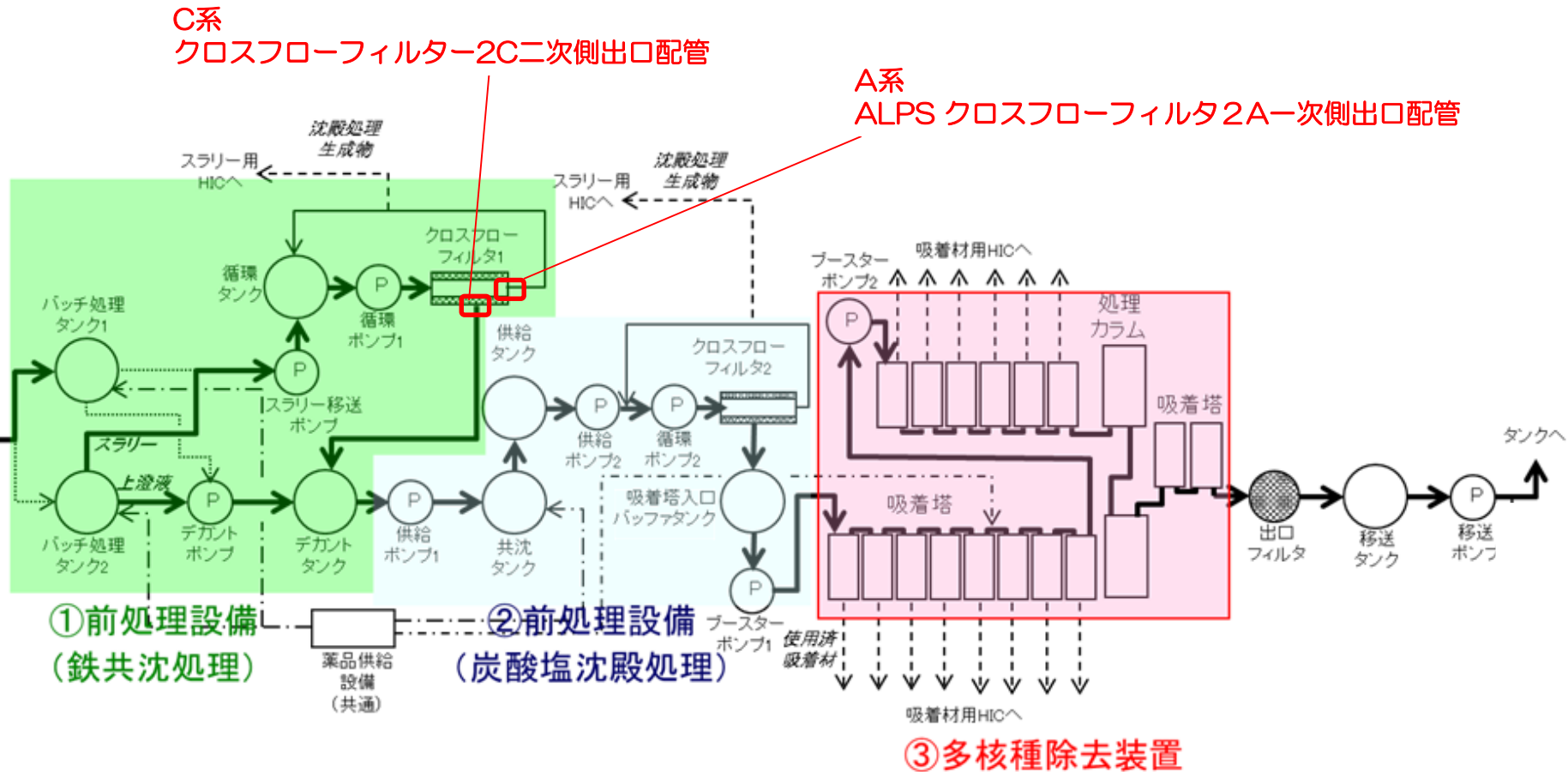
ピンホール発生箇所（C系）



ピンホール発生箇所（A系）

# 腐食孔確認箇所 of 系統概要

## ■ 多核種除去設備 (既設ALPS) 系統概要図



# 推定原因

---

## ■ 推定原因

### 【A系】ALPS クロスフローフィルタ2A一次側出口配管

- 腐食孔が確認されたのは、既設ALPS 前処理ステージ1（鉄共沈処理設備）の一次側（スラリー循環ライン）における、配管（SUS316L）とフランジの溶接部であった。
- ステージ1においては、系統を流れる水は中性であり、塩化物イオンも含まれることから、配管腐食が発生しうる環境であり、配管の溶接部にすきま腐食が発生した可能性がある。

### 【C系】ALPS クロスフローフィルタ2C二次側出口配管

- 腐食孔が確認されたのは、既設ALPS 前処理ステージ1（鉄共沈処理設備）の二次側（ろ過側）における、配管（SUS316L）とフランジの溶接部であった。
- A系と同様に、既設ALPS 前処理ステージ1の腐食環境において、配管の溶接部にすきま腐食が発生した可能性がある。

# 復旧方針

---

## ■ 応急処置

- 当該配管については交換の計画を進めているが、製作に時間を要することから、早期運転再開を目的に、A系C系ともに、配管内面の腐食状況を確認した上で、ベロメタルによる補修を行う。
- 補修後、配管据付前には耐圧試験（最高使用圧力の1.5倍）を行い、漏えいの無いことを確認する。  
運転再開時期：A系 9月11日（金）      C系 9月14日（月）

## ■ 配管交換

- 同一仕様の配管を新規製作し、交換を実施する。  
実施時期：A系C系ともに2021年3月目途

## ■ 今後の対応

- 配管交換実施後、取り外した配管について断面観察等により腐食孔発生原因の調査を行い、恒久対策を検討する。